



帰国生の 学校選び AtoZ

第72回

帰国後に備え、早めに日本の学校での体験入学を

数年間の海外生活を経ると、お子さんには日本の子どもとの違いが生じています。英語力が向上する一方で、日本語力が伸び悩むだけでなく、日本の子どもとは異なった言動がみられることもあります。子どもたちは平日の多くの時間を学校で過ごすので、海外の子どもたちの風習や文化に順応しやすいのです。

したがって、帰国後はむしろ日本の学校や日本の子どもたちに違和感を持ち、それがストレスになる場合もあります。海外の学校では当たり前のことがそうでないことが多々あるのです。例えば、先生に指名されないのに発言したら叱られたとか、海外では普通に使われている言い回しなのに、間違っているとされたとか、英語の発音が良すぎて目立ってしまった、などという話はよく耳にします。また、海外の学校では行われぬ教室の掃除や給食、徒歩での集団登校、海外の学校とは異なる施設や設備、部活動や課外活動などにも戸惑いを感じるようです。例えば、校内に入るときに靴を履き替えること、冷房のないこと、和式トイレしかないこと、徒歩通学や自転車通学があること、などです。部活動でも、バイオリン、チェロなどの弦楽器を続けたかったのに吹奏楽部しかなくがっかりしたということも聞きます。

このような問題を未然に防ぐためには、一時帰国の際に日本の学校に体験入学することをお勧めします。海外の学校との違い、日本の同年代の子どもたちの言動を、直に感じることのできる良い機会です。短い期間であっても、その学校が自分に合っているのかどうかかわかるでしょう。できれば毎年でも体験入学するのがよいですし、遅くとも帰国の前年には体験入学するのが望ましいでしょう。学校体験は、公立校であれば、希望する学校に直接依頼すれば受け入れてくれます。ただし、通学圏内に自宅または親族宅があることが条件となる場合が多いです。私立校での体験入学はあまり例がありませんが、受け入れてくれる学校もありますので、直接連絡してみてください。

《執筆者》

丹羽 筆人 (名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当)
河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、名古屋商科大学アドミッションオフィサー 北米地域担当。

● お問い合わせ先: E-mail nihs@ujec.org (名古屋国際)

